

令和7年度

藍住東中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 生きる力を育む教育の推進
- ・主体的かつ協働的に学ぶことのできる生徒の育成
- ・個に応じた教育の充実
- ・ICTの活用による授業力向上

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
平野忠義	校長:白井幸治 教頭:佐藤健志 谷明美 教務主任・研修主任:飯富雅彦 1年主任・生徒指導主事:北原雄大 人権教育主事・1年学力向上担当:西山拓志 2年主任:森田百合子 2年学力向上担当:前川一光 3年主任:大西仁史 3年学力向上担当:平野忠義

校長

白井 幸治

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

それぞれの教員が各種研修で学んだことや授業実践での成果など機会をとり共有することで取り組み状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○比較的落ち着いて授業に取り組むことができる。 ○授業には積極的に参加し、意見を発表することができる。 ○班活動を積極的に行い、グループで意見をまとめることができる。 ●知識、技能については、定着がはかれていない。 ●学力の二極化が見られ、低位の割合が高い。 ●学習意欲の低い生徒が一定数おり、TT等個別指導の充実が必要である。	・基礎内容の定着を図る。 ・学んだ知識を既習の知識と関連させることができ、教科間で連動させたり、生活の中で活かしたりできるようにする。 ・計算力や読解力を確かなものにする。	・導入部分でのICTの活用や、机間巡視等の声かけにより生徒が意欲的に学習に取り組めるようにする。 ・相互授業参観やICTの活用方法の研修など、各種研修の機会を作り、教師の授業力の向上に努める。 ・発問の工夫により生徒が課題に興味を持てるようにする。 ・ICTの活用によって繰り返し学習を行う。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○友達の見や教師の話を聞き、相手に伝えようとする姿勢は多くの生徒に見られる。 ○学校で実施している読書週間と朝自習の様子を見て、集中して課題や物事に取り組むことができている。 ●自分の考えや気持ちを表現しようとしているが、自分の言葉で表現することに苦労している生徒が多くいる。 ●情報が多くなったり、授業の内容が複雑化したりすると、既習の知識や技能を活用できず、課題の解決につなげられない生徒がいる。	・教師の発問や、授業中の課題に対し、生徒たちが意見を出し合い、他者と協力しながら課題解決ができるようにする。 ・定期テストでは思考力を問う問題（記述式等）に対して無回答を減らし、自分の言葉で考えを書けるようにする。	・各教科で班学習やペアワークを取り入れ、グループ内で意見の集約や発表などの役割分担をすることで多くの生徒が考えを言語化できるようにする。 ・発問の工夫（なぜ、どうして）をする。 ・グループで考えたことを発表させたり、授業の終わりや定期テストで記述形式を出題したりして思考力等を高めるようにする。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○多くの生徒が授業準備をし、チャイム着席ができている。 ○落ち着いた雰囲気です授業を始め、学習に取り組むことができている。 ●学習に対し受け身な生徒が多く、自ら課題を見つけ目標を設定し主体的に学習に取り組める生徒は少ない。 ●難易度が高い課題を自ら解決しようという高い意識を持っている生徒が少なく、あきらめてしまう姿が見られる。	・生徒各自で学習の振り返りを行い、課題解決に向けて学習を主体的に深めることができるようにする。 ・難易度が高い課題に対しても既習の知識などを使いながら粘り強く課題に取り組むことができるようにする。	・自主学習ノートを活用し、学習についての学習状況を把握し、主体的な学習に取り組むことができるようにする。 ・テストの振り返りや単元の振り返りなどを実施し、その中で生徒がどの場面ですまづいているかわかるようにし、生徒への助言をする。 ・単元ごとに語句の定着や基礎力の養成のためAIDドリルやまなびポケットを活用して、繰り返し学習を行う。また、小テストを実施し、定着状況を確認する。			

令和7年度 学力向上ロードマップ

